

第3号

令和6年12月13日  
富山県立富山総合支援学校  
進路指導部

## 「はたらく」考

高等部教頭 野崎 克子

「はたらく」とは、「傍を楽にすること」、「そばにいる人を快く、豊かにすること」と聞くことがあります。語源ではないですが、言葉の受け取り方として魅力を感じます。自分の中の「何か」をもって、周りに貢献する。「何か」には、仕事に一生懸命に取り組むことや、気持ちの良い挨拶をすること、周りの人と仲良く過ごすことなど、様々あると思います。そして、それらを大切に毎日過ごすことが、ひいては、自分自身が楽しく、豊かに暮らしていくことになるのだと思います。

子供たちは、学校生活での学習活動を通して様々な経験を積んでいますが、同時に「はたらく」の手応えも積み上げており、このことも日々の成長の一部として重要と言えるのではないのでしょうか。

このチャレンジネットの記事にもある「就労支援セミナー」での講話では、「会社と働く人のどちらもWin-Winでないと成り立たない」とのお話がありました。また、基本的な生活を整え、会社の一員としてしっかり働ける人は「人財」として大事にされることも分かりました。

「はたらく」の形は、一人一人、その時々で違っても、目の前の課題、目標に向かって精一杯取り組み、「できた!」、「楽しかった!」、「ここを頑張った!」と児童生徒自身が実感していくことで土台が築かれていくことには変わりはないと思います。そんな児童生徒たちの取組の一つ一つを、ご家庭と連携してしっかりと支えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 就業体験・生活体験を行いました。

高等部1年生 就業体験先 (11月6日～11月12日) 一部別日程

### <企業等>

- ・医療法人社団翠十字会 誠友病院 富山老人保健施設
- ・株式会社大阪屋ショップ パル店

### <就労支援事業所>

- ・就労継続支援事業A型・B型「久遠チョコレート富山」
- ・障害者就労継続支援A型事業所 さんらいず
- ・老人介護事業所 あさひホーム
- ・就労継続支援B型事業所 ALSIA 富山
- ・就労継続B型事業所 えみふる

高等部2年生 就業体験・生活体験先 (11月5日～11月15日) 一部別日程

<企業等>

- ・ デイサービス このゆびと一まれ茶屋 ・ 株式会社昔亭 金屋工場
- ・ ウエルシアオアシス株式会社 ウエルシア 富山大泉店
- ・ 富山総合ビルセンター株式会社 ・ アルビス株式会社 奥田店
- ・ G & G アソシエイト株式会社 ・ 塚本郵便通送株式会社 富山本社
- ・ 日医工株式会社 本社 ・ 小林製薬チャレンジド株式会社

<就労移行支援事業所>

- ・ DXスクール カラフル富山

<就労継続支援事業所>

- ・ 就労継続支援B型事業所 ALSIA 富山

<生活介護事業所>

- ・ 障害者支援施設 高志ライフケアホーム ・ 志貴野ホーム障害者福祉センター
- ・ 多機能事業所あゆみの郷 ・ 小規模共生ホームひらすま 生活介護事業所

<保護者のアンケートより>

- ・ 帰宅後はお弁当をしっかり食べてきたか確認し、体験でどのようなことをしてきたか話を聞くようにしました。
- ・ 緊張して出掛けますが、帰宅後は達成感から満足した様子でした。社会に出ることを怖がるばかりでしたが、将来へのやる気につながる大きな成長ができた体験でした。
- ・ 体験先との事前の打合せで、支援や留意点について十分な備えをしていただけだったので、問題なく体験することができました。
- ・ 家の鍵を掛けて出かける、お弁当を自分で詰める、帰宅後に学校へ電話を掛けるなど普段はしたことのない経験をしたことも自信につながったと思います。
- ・ 自分なりに、うまくいかなかった作業や忘れてしまったことを反省し、次は繰り返さないようにしようという気持ちが家でもみられました。こつこつ取り組むことを頑張れば、他者から認めてもらえる、喜んでもらえるということが体験できたありがたい機会でした。

## 就労支援セミナー (11月20日、本校視聴覚)

富山労働局主催の特別支援学校就労支援セミナーがありました。就労希望の高等部1、2年生の生徒12名と本校保護者1名、教職員10名が参加しました。

富山労働局職業対策課 就職支援コーディネーター 端 久美 氏からは、「地域における障害者雇用の現状について」というテーマで、障害別の就職状況について話していただきました。

富山障害者就業・生活支援センター 就業支援ワーカー 東 千晶 氏からは、「就労に向けて」というテーマで、障害者就労アドバイザーである小林製薬チャレンジド株式会社 代表取締役社長 濱井 功 氏からは、「在学中に身に付けたい力について」というテーマで、お話をしていただきました。お二方の話には、共通していることがありました。それは、

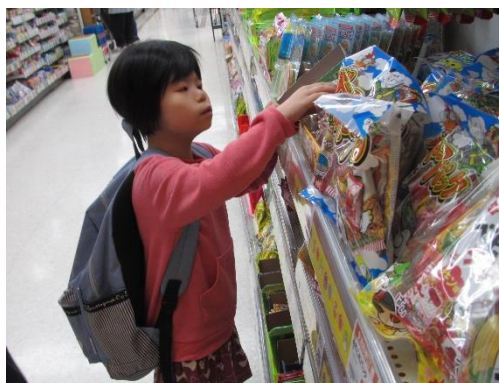
働くためには、

- ・ 基本的な生活習慣を身に付ける。(時間を守る、身だしなみ、健康管理、良い食習慣)
- ・ 家の中で役割をもち、一つでもできることを増やす。
- ・ 働く意欲(仕事への姿勢、就労意欲)をもつ。

などが大切であるということです。日々の生活や学習で身に付けていきましょう。

「自立と社会参加を実現できる人間の育成」を目標としている本校では、小学部、中学部段階より、集団参加、意思表示、場に応じた言動、自己選択・決定などの力を育むために計画的に学習に取り組んでいます。将来の社会生活を意識した取組を以下に紹介します。

## 小学部の取組



3、4年生の遊びの指導での「お店屋さんごっこ」の学習を生かし、スーパーへ買い物に行きました。商品を選んでかごに入れたり、レジで代金を支払ったりして、家族に依頼された物を買ってくることができました。



5、6年生は校外学習でスーパーマーケットのバックヤード見学に行きました。そこで働く人にインタビューをしたり、商品がどのように店頭に並ぶのかなどの説明を聞いたりしてきました。

## 中学部の取組 ～職場体験（9月実施）より～



「富山生きる場センター」では、手書き原稿を読み取ってタブレット端末で文字入力をしたり、宛名シールを封筒に貼ったりしました。入力ミスがないように、集中して作業に取り組むことができました。



「婦中生活介護事業所つつじ」では、仕切りのあるトレイに、部品を並べる作業に取り組みました。部品の裏表や上下に気を付けながら並べ、全部並べ終わると、「終わりました。」と大きな声で報告をすることができました。

## ちょっと気になる進路情報



### 移行支援会議について

本校では、高等部卒業後、進路先にスムーズに移行するため、1月～3月に移行支援会議を開催しています。企業就労をする際には必要に応じて実施し、福祉就労、生活介護事業所の利用の際には相談支援事業所と連携して実施しています。

#### <移行支援会議開催までの流れ(福祉就労、生活介護事業所の利用を希望するとき)>

- ・ 11月頃から相談支援事業所や卒業後に利用を希望している福祉就労事業所、生活介護事業所、保護者等の関係者に学校から日程調整の連絡をします。
- ・ 日程が決まったら、学校から関係者に連絡をします。
- ・ 1月下旬頃から、随時、移行支援会議を学校等で開催します。

#### <生活介護事業所を利用する場合の会議の参加者や内容についての紹介>

参加者：(本人) 保護者

相談支援事業所の相談支援専門員

利用予定の生活介護事業所担当者 行政担当者

担任、学年主任、進路指導主事など学校関係者 等

#### 協議する内容

- 学校で支援してきたこと
- 卒業後、どんな生活をしたいのか(何曜日に施設を利用したいなど)
- どんなサービスが必要なのか  
(入浴サービスは? 送迎サービスは? 移動支援は? ショートステイは? ……など)
- どこ(事業所)で、どんなサービスを受けることができるのか(できないのか)

相談支援事業所による



サービス等利用計画の作成

～スムーズなサービス利用につなげるために～

- ◆ 身近にある事業所を調べたり、見学したりしてみましょ。 (小学部・中学部のときから関心をもつと、卒業後のイメージがもちやすいと思います。)
- ◆ 放課後等デイサービスを、在学中から利用してみましょ。 (在学中からの利用が、卒業後のスムーズな利用につながります。)

### 進路指導部よりお知らせ

進路指導部では、進路指導室前廊下に「進路コーナー」を開設しました。企業や福祉事業所、生活介護施設などからいただいたパンフレットを自由にご覧いただけます。

来校された際には、是非、足を運んでください。

